

AXIS Body Worn Live, Self Hosted

AXIS Body Worn Liveとは

AXIS Body Worn Liveを使用すると、装着式カメラのユーザーはWi-Fi®またはモバイルネットワークを介してライブ映像と音声をストリーミングできます。オペレーターはライブ映像を表示することができます。ビデオストリームは安全に送信できるよう、暗号化されます。

AXIS Body Worn Liveを設定する際は、次の2つのホスティングオプションがあります。

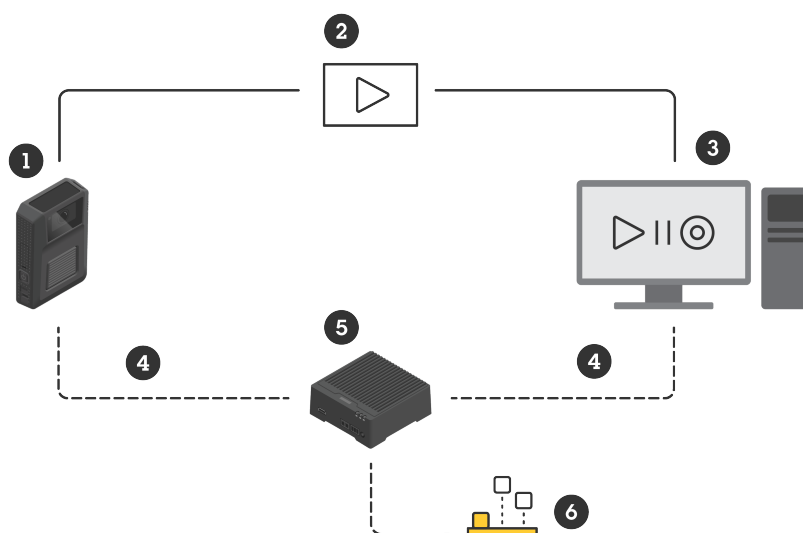
 **Hosted by Axis** – Axisクラウドでホストされます。

 **Self-hosted** – ユーザーの環境で運用される。

このマニュアルは、**self-hosted** オプションの設定と使用を支援します。カスタム設定の方法について説明していますが、設定はVMS (ビデオ管理ソフトウェア) によって異なります。詳細については、VMSのマニュアルを参照してください。

その他のオプションの設定手順については、*AXIS Body Worn Live, Axis-Hosted ユーザーマニュアル*を参照してください。

ソリューションの概要



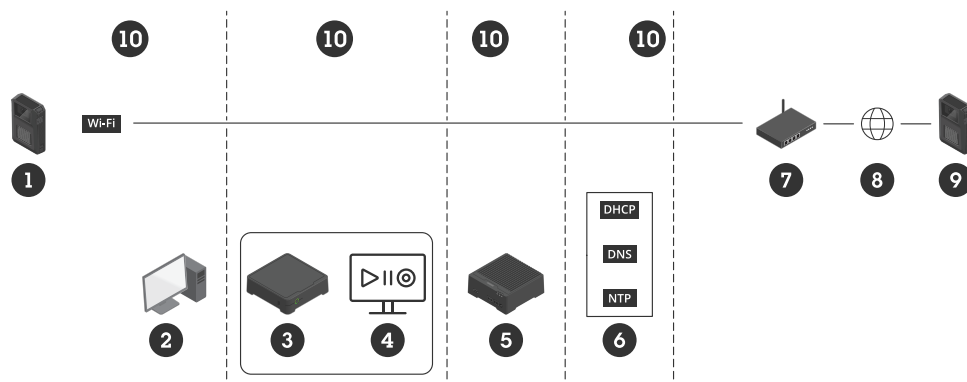
- 1 装着式カメラ
- 2 Peer-to-Peer (P2P) ストリーミング (暗号化)
- 3 WebRTCクライアント
- 4 WebRTCシグナリング
- 5 AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス
- 6 AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリ

AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリ (6) がAXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス (5) にインストールされています。これは、装着式カメラ (1) とWebRTCクライアント (3) の間でWebRTCシグナリング (4) を設定するために使用されます。接続が確立されると、装着式カメラは暗号化されたP2P接続 (2) を使用して、ライブ映像をWebRTCクライアントにストリーミングします。

AXIS W401 Body Worn Activation KitまたはAXIS D3110 Mk II Connectivity HubのどちらかをAXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス (5) として使用できます。

ネットワークに関する推奨事項

これは、プロフェッショナルなセグメント化されたネットワーク設定の例です。ネットワークが例と同じようにインターネットに接続されている必要はありません。ネットワークの設定については、IT管理者にお問い合わせください。



- 1 Wi-Fiに接続された装着式カメラ
- 2 ストリーム視聴用クライアント
- 3 システムコントローラー
- 4 ビデオ管理ソフトウェアサーバー
- 5 AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server デバイス
- 6 ネットワークインフラストラクチャーサービス
- 7 ゲートウェイ/ファイアウォールソリューション
- 8 インターネット (インターネット接続ネットワークの場合のみ)
- 9 モバイルネットワークに接続された装着式カメラ (インターネット接続ネットワークの場合のみ)
- 10 さまざまなネットワークセグメント

提案・推奨事項

- Wi-Fiを使用する場合は、IEEE 802.11k/v/rおよびWPA2-Personal/WPA2-PSKに対応しているアクセスポイントを推奨します。
- 必要性に応じてネットワークをセグメント化します (この例では4つのセグメントがあります - 10)。装着式システム (システムコントローラー - 3、ビデオ管理ソフトウェアサーバー - 4) は別のセグメントにします。
- 推奨される最低限のネットワークインフラストラクチャーサービスは、DHCP、DNS、NTPサーバー (6) です。
- ネットワークがインターネットに接続されている場合、AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server デバイス (5) は、パブリックIPv4アドレスから到達できる必要があります (CGNATなし)。
- ネットワークがインターネットに接続されており、モバイルネットワークに接続された装着式カメラを使用する場合、AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server デバイス (5) に適切なDDoS緩和策 (ゲートウェイ/ファイアウォールソリューション - 7) が適用されている必要があります。
- 証明書要求の署名に使用する認証局へのアクセス。
- 装着式カメラ1台あたり2.5Mbps (解像度360p)または8Mbps (解像度720p) に対応するインフラストラクチャー。

ネットワーク要件

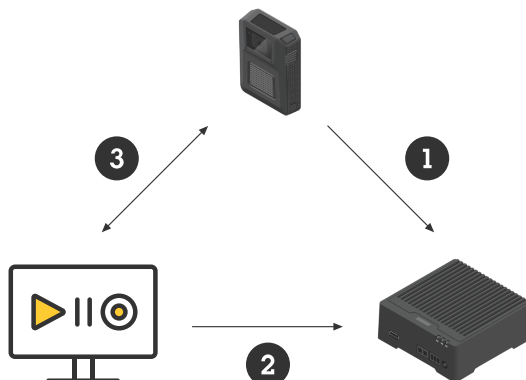
以下にはポートフォワーディングおよび/またはファイアウォールの設定が必要です。

- 装着式カメラおよびビデオ管理ソフトウェアのAXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリへのアクセス

- 装着式カメラビデオ管理ソフトウェア間のピアツーピア通信

重要

ピアツーピア通信が不可能な場合、デバイスはアプリのTURNサーバーを使用しますが、これはお勧めしません。詳細設定の **[Relay endpoint port range (リレーエンドポイントポートの範囲)]** は、装着式カメラとビデオ管理ソフトウェアの両方について、どのポートがアプリのTURNサーバーに開放されるのかを制御します。



AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイスから見たインバウンドポート:

接続	ポート番号	説明
1	TCP 8082	装着式カメラがアプリに存在を知らせるために使用する。
1	TCP/UDP 3478	装着式カメラがアプリからパブリックIPを取得するために使用する (STUN)。
1	TCP 8883	装着式カメラがその位置情報や状態などのMQTT情報をアプリのMQTTブローカーに送信するために使用する。
2	TCP 443	ビデオ管理ソフトウェアがアプリと通信するために使用する (通知およびイベント)。
2	TCP/UDP 3478	ビデオ管理ソフトウェアがアプリからパブリックIPを取得するために使用する (STUN)。

装着式カメラから見たアウトバウンドポート:

接続	ポート番号	説明
3	TCP/UDP 49152–65535 (エフェメラルポートの範囲)	詳細設定の [Host endpoint port range (ホストエンドポイントポートの範囲)] は、装着式カメラがピアツーピア通信に使用するポートを制御します。

制限事項

カメラ接続は、IEEE 802.1x、IPv6、プロキシに対応していません。

使用を開始する - ガイド付き設定

装着式システム、AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイス、およびPCがすべて同じネットワークに接続されている場合、ガイド付き設定が可能です。ガイド付き設定では、カメラがストリーミングにモバイルネットワークではなくWi-Fiネットワークを使用する必要があります。

ガイド付き設定を開始する:

1. AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイスが新品ではない場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットします。手順については、デバイスのユーザーマニュアル (help.axis.com) を参照してください。
2. デバイスを最新のAXIS OSバージョンにアップグレードします。
3. **[System (システム)] > [Network (ネットワーク)]** に移動し、静的なIPアドレスを割り当てます。
4. *AXIS Body Worn Live Self-hosted Server*アプリをインストールする, on page 6
5. スイッチを使用して、**AXIS Body Worn Live Self-hosted Server**アプリを起動します。
6. アプリを開きます。
7. **[Guided setup (ガイド付き設定)]** を選択します。
8. 装着式システムのホスト名、ユーザー名、パスワードを入力します。
9. **[Continue (続行)]** をクリックします。
10. AXIS Body Worn Managerに移動し、Wi-Fiネットワークを割り当てます。手順については、*Wi-Fiネットワークを割り当てる*, on page 7を参照してください。

注

ライセンスを追加すると、評価期間後もソリューションを引き続き使用できます。装着式システムを追加したい場合、ガイド付き設定を再度使用することはできません。

使用を開始する - 手動設定

AXIS Body Worn Liveにライブ ストリーミングするには、以下の手順をすべて実行する必要があります。

1. *AXIS Body Worn Manager*でシステムコントローラー設定ファイルを作成する, on page 6
2. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server*デバイスを準備する, on page 6
3. *AXIS Body Worn Live Self-hosted Server*アプリをインストールする, on page 6
4. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted*を設定する, on page 6
5. *AXIS Body Worn Live*を*AXIS Body Worn Manager*に接続する, on page 7
6. ライセンス, on page 7

AXIS Body Worn Managerでシステムコントローラー設定ファイルを作成する

1. *AXIS Body Worn Manager*で、[Add-on services (アドオンサービス) - 2. [AXIS Body Worn Live] で [Self-hosted (セルフホスト)] をクリックします。
- 3. [インストール] をクリックします。
- 4. [Certificate validity (証明書の有効期限)] にファイルの有効期限を入力し、[Next (次へ)] をクリックします。
- 5. [System controller configuration file (システムコントローラー設定ファイル)] で [Download (ダウンロード)] をクリックし、システムコントローラー設定ファイルをダウンロードします。

AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイスを準備する

AXIS W401 Body Worn Activation KitまたはAXIS D3110 Mk II Connectivity Hubを使用して、AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリを実行します。

1. デバイスが新品でない場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットします。手順については、デバイスのユーザーマニュアル (help.axis.com) を参照してください。
2. デバイスを最新のAXIS OSバージョンにアップグレードします。

AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリをインストールする

開始する前に

axis.com/products/axis-body-worn-liveから、AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリをダウンロードします。

1. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server*に使用するデバイスで、[Apps (アプリ)] に移動します。
2. [Add app (アプリの追加)] をクリックします。
3. アプリをドラッグアンドドロップし、[Install (インストール)] をクリックします。

AXIS Body Worn Live, Self Hostedを設定する

1. *AXIS Body Worn Live, Self Hosted Server*を実行するデバイスで、[Apps (アプリ)] に移動します。
2. スイッチを使用して、*AXIS Body Worn Live Self-hosted Server*アプリを起動します。
3. アプリを開きます。
4. [Manual setup (手動設定)] をクリックします。

5. サーバーデバイスのパブリックIPv4アドレスまたはホスト名を入力します。

AXIS Body Worn LiveをAXIS Body Worn Managerに接続する

1. AXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリの設定で、[Body worn systems (装着式システム)] に移動し、[Add (追加)] をクリックします。
2. [Select file (ファイルを選択)] をクリックし、AXIS Body Worn Managerで作成したシステムコントローラー設定ファイルを選択します。
3. [追加] をクリックします。
4. 現在使用中のセルフホスト型サーバーの設定ファイルをダウンロードします。
5. AXIS Body Worn Managerで、[Add-on services (アドオンサービス) - 6. [Import (インポート)] をクリックします。
- 7. 現在使用中のセルフホスト型サーバーの設定ファイルを選択します。
- 8. ストリーミングにWi-Fiを使用する場合は、Wi-Fiネットワークを割り当てる, on page 7の手順に従います。
- 9. ストリーミングにモバイルネットワークを使用する場合は、[Settings (設定)] > [Camera (カメラ)] > [Mobile networks (モバイルネットワーク)] に移動して設定します。
- 10. [Camera profiles (カメラプロファイル)] > [AXIS Body Worn Live] に移動し、[Streaming (ストリーミング)] を許可します。
- 11. ストリーミングにWi-Fiを使用する場合は、[Wireless connection (ワイヤレス接続)] をクリックしてネットワークを選択します。

Wi-Fiネットワークを割り当てる

1. AXIS Body Worn Managerで、[Settings (設定) - 2. [Wi-Fi® networks (Wi-Fiネットワーク)] で[Add (追加)] をクリックします。
- 3. Wi-FiネットワークのName (SSID) (名前 (SSID)) とPassword (パスワード)を入力します。
- 4. [追加] をクリックします。
- 5. [Camera profiles (カメラプロファイル)] - 6. Wi-Fiネットワークの割り当て先のカメラプロファイルを選択します。
- 7. [Wireless connection (ワイヤレス接続)] パネルを展開します。
- 8. カメラプロファイルに割り当てるWi-Fiネットワークを選択します。

ライセンス

AXIS Body Worn Live, Self Hostedのライセンスを付与するには、システムファイルをエクスポートし、AXIS License Managerにアップロードしてライセンスファイルを生成してからファイルをインポートする必要があります。

1. AXIS Body Worn Managerで、[Settings (設定) - 2. [Add licenses (ライセンスの追加)] をクリックして、説明を展開します。
- 3. [Export (エクスポート)] をクリックして、システムファイルをPCに保存します。
- 4. AXIS License Managerにログインします。

5. AXIS License Managerで、システムファイルをアップロードします。手順については、My Systemsユーザーマニュアルの*License offline systems* (オフラインシステムをライセンスする)を参照してください。
6. サブスクリプションを開始するには、サブスクリプションの開始を参照してください。
7. ライセンスの購入については、ライセンスの購入を参照してください。
8. ライセンスキーの再発行については、ライセンスキーの再発行を参照してください。
9. **[Systems setup (システムの設定)]** に移動して、システム名をクリックします。
10. **[Download license file (ライセンスファイルのダウンロード)]** をクリックします。
11. AXIS Body Worn Managerで、**[Import (インポート)]** をクリックします。

詳細情報

ライブ映像ストリームの表示オプション

ライブ映像ストリームの表示には、次のようなオプションがあります。

- Milestone XProtect®やAirship AIなどのビデオ管理ソフトウェアを介してAXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリに接続します。このオプションを使用すると、複数のクライアントでライブストリームを表示できます。
- シンプルなWebクライアントをWebタイルとしてビデオ管理ソフトウェアに埋め込みます。URL: `https://[live_self-hosted_server_device_IP]/local/BodyWornLiveSelfHosted/index.html#/targets/[camera_MAC_address]?compact`を使用します。このオプションでは、ライブストリームを表示できるクライアントは1つのみです。
- ブラウザからAXIS Body Worn Live Self-hosted Serverアプリに接続します。このオプションでは、ライブストリームを表示できるクライアントは1つのみです。

ライセンス

24時間の間にライブストリーミングが有効なカメラプロファイルを持つユーザーに割り当てられたカメラの数 (過去1週間の平均) によって、必要なAXIS Body Worn Liveライセンスの数が決まります。

固定割り当てのカメラ割り当てを使用している場合でも、自己割り当てのカメラ割り当てを使用している場合でも、ライセンスモデルは同じです。

使用するライセンスの数を最小限に抑えるために、ライブストリーミング専用のカメラプロファイルを用意することをお勧めします。

Axisの製品とサービスのライセンスの詳細については、*My Systems*ユーザーマニュアルを参照してください。

日常的な使用

ライブストリームの開始

ライブストリームを開始するには、以下の手順に従います。

1. 装着式カメラの機能ボタンを2回押します。録画LEDが赤色に変わり、カメラのモデルに応じて次のLEDが点灯します。
 - Wi-Fi接続® LEDが黄色で点滅し始めます。
 -  が白に変わります。
2. カメラの接続が確立されると、モデルに応じて次のように表示されます。
 - Wi-Fi® 接続LEDが緑色で点滅し始めます。
 -  が青色に変わります。
3. カメラがストリーミングを開始すると、モデルに応じて次のように表示されます。
 - Wi-Fi接続LEDが緑色に変わります。
 -  が緑色に変わります。

注

すでに録画済みかどうかに関係なく、ライブストリームを開始することができます。まだ録画していない場合は、ライブストリームと同時に録画が開始されます。

トラブルシューティング

AXIS W102 Body Worn CameraとAXIS W120 Body Worn Cameraでは、トラブルシューティングモードを使用して問題を解決することができます。次の手順に沿って、モードをオンにします。

1. AXIS Body Worn Managerで、**[Add-on services (アドオンサービス) **] > **[AXIS Body Worn Live]** に移動します。
2. **[Self-hosted overview (セルフホストオーバービュー)]** で、**[Show more (さらに表示)]** をクリックします。
3. **[Allow troubleshooting mode (トラブルシューティングモードを許可)]** をオンにします。
4. 装着式カメラでライブストリームを開始します。
5. トップボタンを2回押します。
次のページを表示するには、上部ボタンを1回押します。
トラブルシューティングモードを終了するには、上部ボタンを5秒間押し続けます。

情報は次の形式でページ分けされています。

ページ1:

- システム時刻
- ネットワークステータス (NET)
- Wi-Fiまたはモバイルネットワークモード (Submode WLANまたはLTE)
- 信号強度 (db)
- 接続ステータス

ページ2 - Wi-Fi使用時:

- SSID
- 認証方法 (Auth)
- カメラのIPv4アドレス
- 認証ステータス (Status)
- 接続されているアクセスポイントのMACアドレス

ページ2 - モバイルネットワーク使用時:

- カメラのIPアドレス
- ローミングステータス
- SIMステータス
- APN

ページ3:

- カメラが使用するネームサーバー

ページ4:

- AXIS Body Worn Live, Self Hosted Serverデバイスのステータス (Server)
- ビューワーククライアントのステータス (Peer)
- エンドポイントクエリのレスポンスコード
- Self-hosted ServerデバイスのIPアドレス (Sig IP)

ページ5 – MQTT接続状態:

- MQTTブローカーへの接続状態 (MQTT)
- MQTTブローカーのIPアドレス

一般的な問題

問題: クライアントにライブストリームが表示されない。

現象	原因	解決策
AXIS Body Worn Live, Self Hostedにアクセスできない。	- ファイアウォールの問題 - ポートフォワーディングの問題 - DMZルール - プロキシが必須	AXIS Body Worn Live, Self Hostedにポート443経由でアクセスできる場合は、[Settings (設定)] > [Health (ヘルス)] に移動し、[Perform ICE self-test (ICEセルフテストの実行)] をクリックします。 アクセスできない場合は、次のPowerShellコマンドを使用して接続を確認します。 - Test-NetConnection [IPv4アドレス] - ポート 8082 - Test-NetConnection [IPv4アドレス] - ポート 3478 - Test-NetConnection [IPv4アドレス] - ポート 8883

問題: ライブ映像をストリームしようとしても、装着式カメラがリストに表示されない。

現象	原因	解決策
トラブルシューティングモードをオンにしても、Self Hosted Serverデバイスに関する情報が表示されない。	カメラに、デバイスに接続するために必要な情報がない。	カメラをドッキングし、装着式システムと同期させます。
装着式カメラがリストに表示されない。	- ファイアウォールの問題 - ポートフォワーディングの問題 - DMZルール - プロキシが必須	トラブルシューティングモードをオンにし、カメラがpingを試行できるネットワークテストエンドポイントを入力します。
証明書の有効期限切れの表示が出る。	カメラ、Self Hosted Serverデバイス、装着式システムの時刻が同期していません。	- カメラの時刻とSelf Hosted Serverデバイスおよび装着式システムの時刻を確認し、比較します。カメラの時刻を確認するには、トラブルシューティングモードをオンにします。 - カメラの時刻がデバイスまたはシステムと異なる場合は、カメラをドッキングします。

		3. AXIS Body Worn Managerで、カメラにRTCエラーがないか確認します。ある場合は、Axisサポートに連絡してください。 4. RTCエラーがない場合は、システムコントローラーとSelf Hosted ServerデバイスにNTPサーバーを設定して時間を同期させます。 5. 設定をやり直します。
	証明書の有効期限が切れている。	AXIS Body Worn Managerで証明書を更新し、設定をやり直します。
	カメラとSelf Hosted Serverデバイス間に証明書の不一致があります。	AXIS Body Worn Live, Self Hostedのログファイルとシステムレポートに、不一致のエラーがないか確認します。エラーがある場合は、カメラをドッキングして設定をやり直します。
AXIS Body Worn Liveライセンスの有効期限切れの表示が出る。	ライセンスの有効期限が切れている。	ライセンスを更新します。
トラブルシューティングモードをオンにすると、 No signaling IP (シグナリング用のIPアドレスが検出されません) と表示される。	不適切なDNSの設定。	DNSの設定を確認します。

問題: 装着式カメラがリストに表示されるが、ストリームできない。

現象	原因	解決策
「デバイスと通信できません」というメッセージが表示される。	ICEによるすべての接続経路の候補が機能しない。	Chromeのchrome://webrtc-internals/、またはFirefoxのabout:webrtcを使用して、ネットワークインフラストラクチャーを改善してください。

ビデオが正しくレンダリングされない。ビデオクライアントの情報ボタンをクリックすると、ビットレートが360pでは2.5Mbps以下、または720pでは8Mbps以下と表示される。	UDPパケットがドロップされる。	ネットワークインフラストラクチャーを改善し、より高いスループットを確保します。以下は、1台のカメラをシミュレートし、UDPスループットを検証するためのコマンドの例です。
ビデオが正しくレンダリングされない。ビデオクライアントの情報ボタンをクリックすると、リレーモードが使用される。	Peer-to-Peer (P2P) ストリーミングの代わりにTURNが使用されている。	• iperf3.exe -server • iperf3.exe -client SERVER_IP -udp -bitrate 8M -time 30 -length 1460

Wi-Fiの問題

問題:装着式カメラがWi-Fiネットワークに接続しない。

現象	原因	解決策
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラに「認証されていない」というメッセージが表示される。	Wi-Fiは802.1X (WPA-EAP-TLS) を使用していますが、このカメラではサポートされていません。	WPA2-PersonalまたはWPA2-PSKを使用してください。
	Wi-FiにカメラをブロックするMACフィルタが設定されています。	フィルタでカメラのMACアドレスを許可してください。
	Wi-Fiのパスワードが間違っています。	AXIS Body Worn ManagerでWi-Fiパスワードを確認してください。同じパスワードを使用して、別のデバイスを同じネットワークに接続してみてください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、サブモードがLTEになる。	カメラの中にSIMカードが入っています。	カメラの電源をオフにして、SIMカードを取り出してください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラにIPv4アドレスが割り当てられない。	アクセスポイントでWPA2が許可されていません。	アクセスポイントでWPA2を有効にします。
	Wi-Fiネットワークのパスワードが間違っています。	AXIS Body Worn ManagerまたはAXIS Body Worn Assistantで、正しいパスワードを入力します。
トラブルシューティングモードをオンにすると、アクセスポイントにMACアドレスが割り当てられない。	SSIDが間違っています。	正しいSSIDを入力します。
カメラのディスプレイに  が表示される。	カメラがWi-Fiアクセスポイントから離れすぎています。	カメラをアクセスポイントに近づけて使用してください。
カメラがあるWi-Fiアクセスポイントから別のアクセスポイントに切り替えると、ストリームが遅れることがある。	これは既知の制限事項です。詳細については、リリースノートを参照してください。	-

モバイルネットワークの問題

問題:装着式カメラがモバイルネットワークに接続しない。

現象	原因	解決策
トラブルシューティングモードをオンにすると、サブモードがWLANになる。	カメラの中にSIMカードが入っていません。	カメラの電源をオフにして、SIMカードを挿入してください。
AXIS Body Worn Managerで、SIMカードの状態がUnknown (不明)になっている。	SIMカードが対応していません。	通信事業者にお問い合わせるか、別のSIMカードを試してください。
カメラのディスプレイに  が表示される。	カメラの電源がオンになっていてドッキングされていないときにSIMカードが交換されました。	カメラをドッキングします。
	ネットワークプロバイダーによってカメラが有効化されていません。	- AXIS BodyWorn Managerで、Cameras (カメラ)  に移動し、カメラをクリックして、カメラの国際移動体装置識別 (IMEI) 番号を確認します。 - IMEIがブロックされていないか、imeicheck.comなどで確認してください。 - IMEIがブロックされている場合は、通信事業者に連絡して許可するよう依頼してください。
カメラをドッキングすると、AXIS Body Worn Managerに「SIMカードがロックされています」というアラートが表示される。	SIMカードがロックされています。	PUKコードを使用して新規PINを設定してください。
カメラをドッキングすると、AXIS Body Worn Managerに「PINが正しくありません/入力されていません」というアラートが表示される。	SIMカードのPINが間違っているか、入力されていません。	AXIS BodyWorn Managerで、Cameras (カメラ)  に移動し、カメラをクリックします。正しいPINを入力します。
 がカメラディスプレイに表示されない。	通信事業者が、カメラがサポートしているLTEバンドをサポートしていません。	カメラのデータシートに記載されているLTEバンドと、通信事業者の対応バンドを比較してください。
	カメラが電波塔から離れすぎています。	カメラを電波塔に近づけて使用してください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラにIPv4アドレスが割り当てられず、APNも表示されない。	モバイルネットワークとインターネットをつなぐゲートウェイとして、通信事業者が指定するアクセスポイント名	AXIS Body Worn ManagerにAPNを追加します。

	(APN) を入力する必要があります。	1. [Settings (設定)]  > [Camera (カメラ)] > [Mobile networks (モバイルネットワーク)] の順に移動します。 2. [Show more (さらに表示)] をクリックします。 3. ネットワークプロバイダーが使用するアクセスポイント名を入力します。
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラにIPv4アドレスが割り当てられず、ローミングが無効になる。	モバイルネットワーク契約で、ローミングが無効になっています。	1. カメラをドッキングします。 2. モバイルネットワーク契約でローミングを有効にします。
トラブルシューティングモードをオンにすると、カメラにIPv4アドレスが割り当てられる。	データ転送用のクレジットが不足しています。	ネットワークオペレーターにお問い合わせください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、接続ステータスがICCID_EMPTYになる。	カメラの中にSIMカードが入っていません。	SIMカードを挿入してください。
トラブルシューティングモードをオンにすると、接続ステータスがICCID_MISMATCHになる。	カメラに挿入されているSIMカードがシステムに登録されているSIMカードと一致しません。	カメラをドッキングします。

T10214999_ja

2026-05 (M11.2)

© 2025 – 2026 Axis Communications AB